

# 飯田市における『新たなモビリティ』の検討に係る取組について

リニア推進部

## 1 趣旨

将来的に普及拡大が予想される自動運転やEV(電気自動車)、MaaS(Mobility as a Service)など新技術による『新たなモビリティ』の本市における活用について、各行政分野の幅広い観点から検討を進める。

<参考> 自動運転、EVの効果(例)

\* 交通事故の削減 \* 渋滞の解消・緩和 \* 運転手不足への対応 \* 高齢者等の移動支援 \* 環境負荷の軽減

## 2 飯田市「新たなモビリティ検討チーム」の設置

- 本市の今後の地域づくり、行政サービス等における、自動運転等の新技術による新たなモビリティの導入、活用について、必要な諸課題の検討を総合的に行うため、関係部課の職員による「検討チーム」を設置する。
- 検討チーム構成員は、原則として各課の係長級職員とし、事務局は、リニア推進課公共交通係に置く。
- 検討チームでは、相互の情報共有を図るほか、課題検討等のため、必要に応じ、必要な参集範囲により会議を開催する。
- チーム構成(案)(開始後、構成員は柔軟に見直し可)

部	課	想定される主な関係事項
総合政策部	企画課、IIDAブランド推進課	総合計画、ICT活用
リニア推進部	リニア推進課 リニア整備課	地域公共交通、バスロケシステム、交通系ICカード等 リニア駅周辺整備
市民協働環境部	ムトスマちづくり推進課 環境モデル都市推進課	中山間地利便性向上 EV、EVステーション、エネルギーセンター
健康福祉部	福祉課、長寿支援課	高齢者等移動支援(買い物、通院等)
産業経済部	商業・市街地活性化課 観光課	中心市街地の環境設定(交通拠点・対象路線等) MaaSモデルルート構築(交通～宿泊～観光施設等)(※)
(※) ex. *リニア駅～JR飯田線/路線バス/通勤～天龍峡/かぐらの湯/昼神温泉・星空ツアーなど *中部国際空港(インバウンド)～リニア駅～農家民泊～農業・農村体験/直売所など		
建設部	管理課 地域計画課	対象路線の道路整備・管理 市街地の土地利用・駐車場再編等

## 3 当面の取組・検討事項(令和元年度～)

### (1) 研修への参加、勉強会の開催

ア 「リニアと連携した自動運転モビリティに関する特別研修」(伊那谷自治体会議(事務局:県リニア整備推進局)等3者の連携事業による研修会。R1.5～)への参加

イ その他、民間企業の説明・プレゼン(技術・制度の動向、実証実験・社会実装の展開事例等)の聴取

### (2) 実証実験事業の検討、実施

民間企業等による飯田市をフィールドとした実証実験の検討、実施

### (3) 地域展開のあり方・方法の検討

(1)を経て、町村・広域連合、民間企業(交通事業者、観光事業者・DMO、ICT事業者等)、専門家等と連携した地域展開のあり方(まず、進め方、協議の内容・体制等)について検討